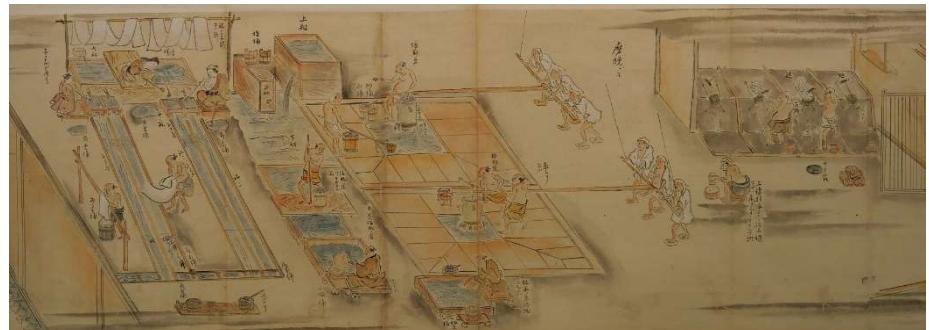


① 佐州金銀山稼方諸国帖（中村俊郎氏蔵）※資料保護のため会期中に展示場面を変更します。

文化5年（1808）に描かれた、佐渡金銀山での採掘、選鉱、製錬の様子を描いた絵画。折り畳み式になっており、全て展開すると14メートルにも及びます。江戸時代、各地の鉱山で同様の絵巻が製作されていますが、本資料もその一つです。こうした「鉱山絵巻」は、新任の奉行・代官に業務内容をわかりやすく説明するために製作されたと考えられています。

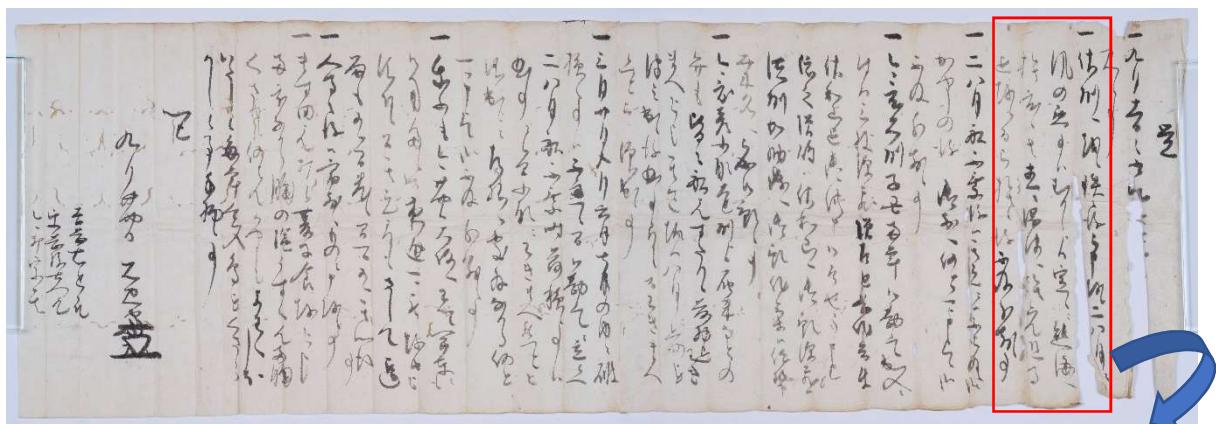


△坑道内での採掘・排水の様子



△採掘した鉱石を泥状になるまですり潰し、金銀を多く含む砂を選ぶ様子

② 大久保長安覚（個人蔵・大田市教育委員会寄託）※資料保護のため11月27日（水）から別の資料に変更します。



徳川家康の命で日本各地の銀山を支配していた大久保長安が、石見銀山にいた3人の部下に宛てた手紙。指示事項が箇条書きになっており、2か条目では、石見国の温泉津から佐渡国に向けて鉄を積んで出港した船が但馬国（兵庫県北部）の沖で沈没した事件について、皮肉を交えて問責しています。

佐渡金銀山の鉱石は大変硬く、掘削の道具の原料となる鉄を大量に必要としました。このような背景があり石見国産の鉄が注目されたと思われます。大久保長安が管轄する地域・鉱山を互いに連携させながら運営していたことがわかる古文書です。

一、佐州へ越候鉄之儀被申越候、二八月ニ風の悪事ハ
むかしより定候ニ、態海、捨度候者、直ニ湯津、
但馬迄越候而被捨候儀不及分別候事、
(おおよその意味)

佐渡に送った鉄の件の報告を聞いた。2月・8月は風
向きが悪いと昔から決まっている（こんな時期に積み
出すなんて）。わざと海に（鉄を）捨てたいなら温泉津
で捨てればよく、但馬まで行つて捨てるなど理解でき
ない。